

藤沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット

2015年2月1日

第249号



主な記事

- ・動き出した！市民型エネルギーの地産地消
- ・福島県内の健康被害情報
- ・自家製生ゴミ堆肥で家庭菜園
- ・藤沢の気象情報 ・放射能測定値

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/
事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳
☎/FAX 0466-87-4922

藤沢市民によるエネルギー地産地消への期待

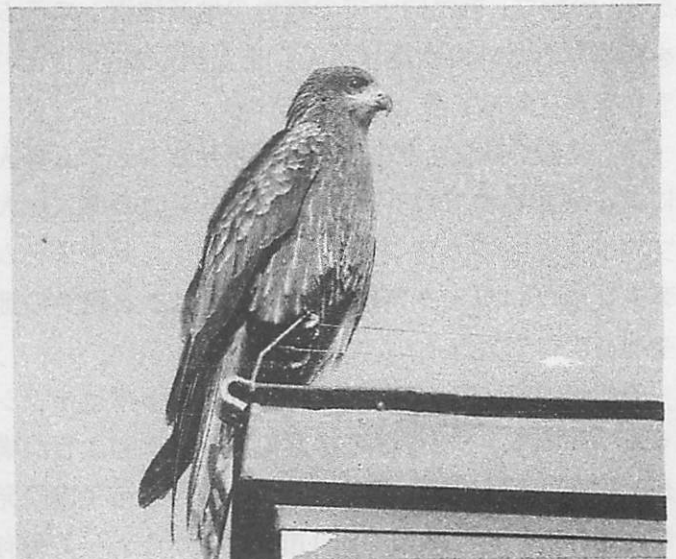
平成26年度に藤沢市は「藤沢市のエネルギーの地産地消推進計画」を策定している。私は検討委員会の委員である。集合住宅や公共施設等での太陽光発電100箇所設置増の他、「市民主体エネルギー組合」の結成への市の支援が重点プロジェクトとして明記されている。2016年に電力全面自由化され、家庭レベルで市民が電力を選べる時代が到来する。市民主体での電力供給選択肢の構築は急務でもある。

私は、福島第一原発事故による放射能被災地の飯舘村民の支援活動をしているが、村民達の生活再建の途は拓けないままである。村民の半数近くによるADR集団提訴団も組織され、東電の全面的償い、生活・コミュニティ再建に向け村民一体の活動がおきている。原発は早急に全面廃止し、脱原発によるエネルギー市民生活を市民主体で展開していくことが求められている中で、藤沢市が全国にいち早く、市民参加のエネルギー地産地消施策の推進を打ち出したことは画期的である。

全国的には、売電目的での市民発電所が多く造られつつあるが、エネルギーの地産地消を目的とした、完結型の市民発電所づくりは斬新である。新電力、発送電分離、電力価格制度等、電力全面自由化、電力エネルギーの市民権確立のためにはまだまだ多くの課題はあるが、藤沢市民エネルギー組合の結成はその解決の一つとなる。

藤沢市は海、川、都市、里、緑地、そして、富士山眺望のできる風光明媚で、太陽の恵み豊かな湘南の地の利を生かしたい。農業漁業等の一次産業と消費者がつながり、食の地産地消の確立と合わせて、太陽熱、バイオマス等の資源も活用したエネルギーの地産地消のモデル地として市民が丸となって活動していくことを期待したい。大学も教育・研究、そして、大きなエネルギー消費者として協力していきたい。

糸長浩司（日本大学生物資源科学部教授）



トビ 片瀬漁港で撮影 宮地氏提供

動き出した！ 市民型エネルギーの地産地消

藤沢市では「藤沢市地球温暖化対策実行計画」で温室効果ガスの削減目標を1990年度比2020年度までに40%削減するという大変意欲的な計画を推進していますが、今後さらにエネルギーの地産地消を見据えた再生可能エネルギーの活用を推進するため、環境省の補助金を活用し「藤沢市エネルギーの地産地消の推進計画」（以降推進計画）を策定中です。

なお、計画策定に当たっては「藤沢市エネルギーの地産地消検討会」（以降検討会）において検討を行い具体的な推進計画の策定と実施事業の選定を行う事としています。調査の実施・計画素案の作成、その後完成版を2月の市会議への報告し、国への提出を3月の提出期限までに行います。

このような動きに対して市民参加型でのエネルギー事業が実現できればと考え昨年11月15日に「地産地消エネルギーを考える会」が行った第1回ワークショップに集まった方々により「地産地消エネルギーをすすめる藤沢市民の会」（以降市民の会）が発足しました。そこで出された市民の提案は、「検討会」の糸長浩司氏（日大生物資源科教授）から市に追加提案されました。その結果、「推進計画」の重点プロジェクト*に「⑤市民主体型エネルギーの地産地消の仕組みづくりプロジェクト」として採り上げられ、「市民参加、市民協同での」（仮称）藤沢市民自然エネルギー組合」の設立、市民同士での電力の地産地消システムを構築するための仕組みづくりを支援します。」という文言が入れられました。

（注）重点プロジェクト：①太陽光発電システム導入による地産地消プロジェクト②燃料電池の導入拡大プロジェクト③ガスコージェネレーションシステム導入促進プロジェクト④新電力活用による電力の地産地消プロジェクト

その後、第2回、第3回の「市民の会」のワークショップが開催され、今後の推進について次のような構想／提案、検討課題が議論されています。市民協同発電所を、亀井野にあるI氏（市民の会メンバー）所有の農地（90坪）を借用してハウスの上に40Kの太陽光発電設備を設置する構想がありますが、投資金額4千万円（想定）の調達、自己消費以外の電力の送電

方式、市民エネルギー組合の設立等々検討課題があります。

今後より多くの市民の方々のご参加、ご協力があるてこそ、その実現は可能だと思います。

どうか宜しくお願い致します。（黒田 亘）

自家製の生ゴミ堆肥で家庭菜園

2014年4月から藤沢市で貸し出ししている家庭菜園を20m²借りて野菜作りを始めた。

5年ほど前から生ゴミ堆肥化を始め、この堆肥を家庭菜園に使うとはじめたしだいである。

4月から12月まで、ナスやトウモロコシ、白菜、ネギ、セロリー、カリフラワー、長芋などを栽培した。

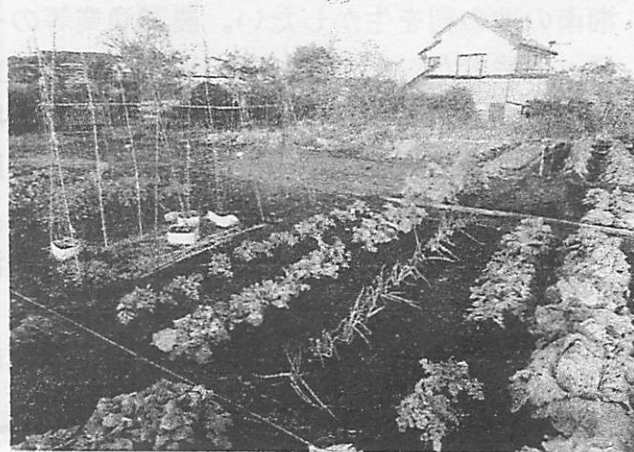
生ゴミ堆肥だけの有機肥料を使い化学肥料は使わなかったため、生育は余り大きくは育たなかったが、味の方は茅ヶ崎野菜と同じくらい美味だった。

私のプランターを使った生ゴミ堆肥づくりは、出来た堆肥を顆粒状に乾燥させ、袋に詰めて保存しておくことが出来るので、冬場に作った堆肥をためておいて夏場の野菜作りに使おうという志向である。

生ゴミ堆肥化をはじめても使い道が無くて途中で止めてしまう人が多いと聞くと聞くと、家庭菜園を始めれば有効に使えるので、生ゴミ堆肥化と家庭菜園をセットでやられるようおすすめしたい。

プランターを使った乾燥生ゴミ堆肥の作り方を知りたい方は、ご連絡戴けば別途資料をお送りします。

小林麻須男



福島第1原発事故から5年目 福島の健康被害状況

今年はチェルノブイリ原発事故から30年目、福島第1原発事故からは5年目を迎えようとしている。

公的に認められているチェルノブイリ事故の影響による健康被害は小児甲状腺がんのみであるが、学習すればするほど、被害を認めない原子力推進派の強大な力も見えて来て、公的に被害を認めさせることの難しさに行き当たる。

これは実は70年前の原爆被災者にもあてはまることである。原爆症認定訴訟は今も続けられている。

さて、福島原発事故後に公的な機関が気にしているのは甲状腺がんが増加するかどうか。そのために県民健康調査が開始されたとも言えよう。

福島県内で進められて来た健康調査は主に基本調査と甲状腺検査であるが、基本調査は回答数が全体の26・9%にすぎない。基本調査から外部被曝線量を推計しようとしている県は、回答数を増やす事に苦慮している。

これに対し甲状腺検査の1巡目は対象者のうち80%以上が受診している。

甲状腺検査の最新情報は、昨年末12月25日に発表された。「計112名の甲状腺がんとその疑い」という結果が出た。1巡目(先行調査)の結果 甲状腺がんとその疑い 109人(そのうち良性1名) 悪性ないし悪性疑い 109人(手術85人:良性結節1人、乳頭癌81人、低分化癌3人)。

2巡目(本格調査)の結果、甲状腺がんとその疑い 4人、悪性ないし悪性疑い 4人(手術実施0人) 2巡目の結果を見れば少ないように見えるが、2巡目検査の受診率が37%と大幅に低下している。しかも、対象者38万人中65000人ほどを検査しただけであり、まだ途中報告である。

この2巡目の検査でB判定は457名。そのうち2次検査を受けて結果の出た人が155人。細胞診まで調べた人がその中の11名。さらにその中から4人のがんの疑いが出たということ。

その4人は実は1巡目の検査ではA1判定2名

とA2判定2名だったことが判明している。また、B判定のうち333名はA1(127名)A2(206名)だったことも判明している。

つまり、A判定だったからと言って安心できるわけではまったくないのである。

通常、小児甲状腺がんは100万人に0~3人が発症すると言われていた。(国立がんセンター統計による)これに対し福島県の甲状腺検査では小児甲状腺がんが100万人あたりに直すと300人を超える事になる。

大変に憂慮すべき結果が出たと思うが、これに対して、専門家のトップに立つ長瀧氏以下数名が、これはスクリーニング効果であるとか、見つけなくてもよいがんを見つけてしまって住民に不安を与える過剰診断だという意見を述べている。

これに対して、甲状腺検査の責任者である鈴木眞一氏は、手術しなくてはいけない人を手術しているという答え方をしている。つまり、病状は深刻な事態だからこそ手術しているというのである。

脱被ばくを目指している市民団体は、この結果はすでに異常事態だとして検査の他地域への拡大や検査の継続などを訴えている。

福島県や各医療機関でWBC(白血球数検査値)の検査をしている所では、検出されないからもう内部被曝は問題ないとしているが、WBCで未検出であっても尿検査をすれば検出される場合が多い。

伊達市の幼稚園の園児が希望者のみ検査したところ6割以上の園児からセシウムが検出されている。子どもたちを守るには公的な検査にそういう検査も盛り込まなくてはならないし、「尿検査、血液検査」も実施すべきである。

須藤百合子



冬の富士山の積雪

藤沢から富士山が美しく見える季節です。少し高所から眺めると、手前側の裾野すなわち御殿場から斜面の上方に舌状に積雪が広がっています。このあたりは、季節風の風向を考えると山の風下側です。風上側の裾野と山頂の南北両側は観察出来ませんが、積雪の範囲は風下側ほど広がっていません。

この時期に新幹線に乗る機会があれば、富士山を是非見て下さい。駿河湾側からみると、雪線が右(東側)下がりになっているのが分かります。右下がりになることには理由があります。

御殿場側に広がる積雪は、標高の低い地帯で上昇気流がもたらしたものです。上昇気流は山頂付近に卓越している季節風(風向:北～北西)とは逆の風向で、富士山の山体により気流が乱され剥離現象が起るためです。剥離現象で斜面を上昇する気流は雲をつくり、雪を降らせます。

この原稿を書いている1月19日の時点で舌状に広がっている雪は1月15日の午後に積もったものです。この時、藤沢気象観測ステーションでは北の風(18時ころ)、最大風速が14.5m/s、最大時間雨量は8mmでした。気温は屋上の値ですが5℃でした。

(<http://citywatch-net.sakura.ne.jp/AWS/>)

林 陽生(NPO 法人シティ・ウォッチ・スクエア)



放射能測定値

1月中に市民が計測したものです

(HOROBA Radi) 単位($\mu\text{Sv/h}$)

大鋸一丁目 道路	0.062
〃 斜面緑地	0.045
順天医院前道路	0.059
藤沢駅南口労働金庫前	0.059
藤沢保育園入り口	0.053
石上公園	0.039
市民会館へ歩道デッキ	0.071
〃 植え込み	0.061

ECONET INFORMATION

未来の地球とくらしから

楽しくエコなクッキング

とき 2月28日(土) 14:00-16:00

場所 藤沢NDビル6F(藤沢郵便局隣)

講師 行木准教授(慶大環境情報学部)

川崎由香(エコクッキングインストラクター)

主催 地球温暖化対策地域協議会

◎「エネルギーの地産地消をすすめる藤沢市民の会」

日時:2015年2月14日(土) 14:00-16:00

場所:日本大学7号館会議室(3F)

(初めての方は、正門守衛室で道をお尋ねください)

内容:市民共同発電所づくりの取組

どなたでも参加大歓迎です!

問合せ 090-6186-0452(宮地)



相模湾の生物多様性を知ろう

「太古の海からの贈り物」記念講演窪川かおる氏
リレー講義ほか 無料 定員150名 事前申込みを
2月7日(土) 13:30- 鎌倉商工会議所地下ホール
主催:神奈川県・相模湾海辺の環境学習ネットワーク
Fax 045-210-8837 tel 045-210-3260

藤沢エコネットから

会費・購読料の納入をお願いします

ゆうちょ銀行(9900) 店番(029)

当座預金 0046501 73ザエコネット

(従来用紙の方法も利用できます)

会員募集=年会費・購読料→3000円

◎事務局会議 2月12日(木) 14:00~
市民活動推進センター

《編集後記》阪神淡路大震災から20年が経った。復興にいろんな教訓を得た結果、東日本大震災の支援にも役立ったと聞く。間もなく5年目を迎える東北各県はまだまだ住宅さえ仮設のままでの生活を余儀なくされている。福島は今も家族離散の状態が続く。東北にも春が来て欲しい。(H)